

アーティスト・イン・スクール

住中 浩史 ×

(アーティスト)

前橋市立 第六中学校



アーティスト・イン・
スクールとは？

アーティストやクリエイターが市内の学校へ出向き、
ワークショップや授業を行います。
将来の地域や文化を担う児童・生徒たちと
アーティストが共同で学び、
表現力やコミュニケーション力を身につけます。
2年目となる29年度は、中学校で初開催し、
中～長期にアーティストが関わる
プログラムを実施しました。

山川 冬樹 ×

(アーティスト)

前橋市立 みずき中学校



中島 佑太 ×

(アーティスト)

前橋市立 桃川小学校



映像でも配信
しています。

アーツ前橋の公式youtubeチャンネルで
映像を見ることができます。

アーツ前橋 アーティストインスクール youtube

検索



関係者の声



第六中学校

鈴木 紗代 先生

前橋の中学校ではじめてのアーティスト・イン・スクール（以下、AIS）実施には苦労も多かった。AIS事業以前に、現代美術やアーティストという存在、特に住中氏は「場とコミュニケーションをつくる」作家なので、校長をはじめ、他の教師たちに意義を理解してもらうことが大きな課題だった。結果的には、教員や美術部を中心とした生徒たちにも主体的な活動が大きな達成感を生み出し、高い評価を得ることができた。



第六中学校

1 年生

サポートに来ていた群馬大学の学生さんと共同作業が出来て楽しかった！自分たちが作ったものが完成した時、とてもうれしかった。



みずき中学校

吉沢 智大 先生

普段は見えないものや聴こえないものを自分なりに形で表現するという、自分が知らないことを広げていくことが、生徒達にとっても勉強になった。今回の授業は、山川さんは受験には関係ないと言っていたが、私自身は関係していると感じたので、受験前のこの時期に実践できてよかったと思います。



みずき中学校

3 年生

普段生活している中で五感で感じとれないようなものを自分なりに工夫して感じとろうとすることは、自分が新たな発見をしてつながる、大切なことだと知ることができた。また、自分が感じられなかった部分を見たり聞いたりできたのはとても新鮮で不思議だったが何か新たなことを見つけられるような気がした。今後の生活にも活かせる、とても貴重な経験だった。



みずき中学校

3 年生

普段あまり美術に興味を持ったりすることはなかったけれど、この時間で様々なジャンルの楽しさを学び、知ることができました。体ひとつでこんなことができるんだと不思議でおもしろかったです。



桃川小学校

樺澤 洋子 先生

成長するのを拒みたくないような悲しい出来事も多い社会で、自分の好きなことをそのまま仕事にしているアーティストに、成長過程で無限の可能性を秘めている子どもたちが出会うことで、大人や人間って素敵だなと思ってほしいのです。学校は開かれていて、いろいろな人が子どもに関わるべきだと考えています。学校独自の価値や指導の方針もありますが、今回の事業は授業以前の人間としての関わりで、もっと大きな視点で子どもたちを成長させていくことにつながりました。



きえばしプロジェクト
群馬大学

茂木 一司

滞在型AIS事業のよさは他者性や多様性を受容しなければならない場に立ち会うことだ。今回教師（学校）や生徒たちに大きな違和感を持ち込めたことはよかった。自由を基礎とするアートと規範を求める教育の葛藤が創造性を生んでいく。異文化に触れることでしか自己発見はなく、コーディネート的重要性をより感じた今回の事業でした。



きえばしプロジェクト
群馬大学

春原 史寛

いつもの図工の授業にアーティストがいることが継続されることで、大きな価値を生み出しました。アーティストの力である「やりたいことをやること」「誰かと一緒に表現すること」「人と自分の違いを認めること」「わからないことや失敗も面白いこと」は、本来すべての人生にとって大切なことです。アーティストが学校内にこのような多様性を持ち込み刺激して、子どもたちが活性化され、先生はもちろんコーディネートした私の、学校や子どもたちの創造性についての見方が変わり、それが次の展開を生み出していくと思います。



アーツ前橋

小田 久美子

“学び”は教科の中にあるのではなく、自分の心をドキドキさせてくれる出会いによって生まれる自分の感覚が開くような経験の中にあるのだと思います。アーティストのパフォーマンスや考え方や見方は、そのドキドキの着火剤になる。そんな瞬間が今年も生まれました。



アーツ六中プロジェクト

様々な表現を可能にするアイテムが沢山ある部屋「アーツ六中」を美術部の中学生たちと共に制作するプロジェクトを行いました。アーティストは20日間の滞在制作を実施しアイテムを制作。制作したアイテムは今後学校で活用されていきます。

●全体のスケジュール

10/12	滞在開始、全校生徒に朝の放送でごあいさつ
10/13 ▼ 10/18	生徒や先生たちと意見交換、リサーチ 対話のアイテム「対話用テーブル」の制作
10/17 ▼ 10/30	生徒と一緒にアイテムの制作
10/31	学習発表会で全校と地域の方へお披露目、滞在終了
11/3	番外編：ふりかえりの会

アーティストから

長期の滞在制作は、
お互いに刺激し合えることが
重要なポイントだと思っています。
最初はドリルの使い方を教えていたのですが、
次第に生徒同士で教えあうような
場面を見て感動したり、
こちらがイメージした空間づくりを
先生や生徒たちに理解してもらえようになり、
長い時間があつたからこそ出来た活動だったと思います。
生徒たちと制作した空間とアイテムが、
どのように使われ、どんな表現が生まれるか
とても楽しみにしています。

補助スタッフ：岡本麻衣、狩野未来、木暮萌、宮川沙織



●アーツ六中では、10種類20点のアイテムを制作しました。



●学習発表会で、全校生徒と地域の保護者の方に公開しました。

住中 浩史 アーティスト

地域『で』アートを行うのではなく、その地域『の』アートとはなにかを絶えず模索しながら、実際に制作・行為・会話の中で実践するアーティスト。近年は、新しいドラマが生まれる「場づくり」と、今起きているドラマが加速する「アイテム」づくりを行う。

<http://www.suminaka.net/>



身体から始まる表現

アーツ前橋企画展の参加アーティストである山川冬樹を派遣。音楽、舞台芸術、地理、テクノロジーの歴史など美術以外の領域まで広がる解説も交えながら、身体を使ったパフォーマンスの鑑賞や体験を行いました。最後には、アーティストでなくても、自分の身体でよく見て聞いて世界を知り、考えて工夫していくことが大切というメッセージが中学生へ送られました。

●当日のスケジュール

「総合」の授業 12/15(金) 13:40～15:30

13:40～14:30 身体から始まる表現

- ・ホームイとイギルのパフォーマンスを鑑賞・山川氏の活動のコンセプトの紹介
- ・「パ」という音節を100万円で売った話・ホームイについての紹介と体験

14:30～14:40 休 憩

14:40～15:30 身体を拡張するテクノロジー

- ・心臓の鼓動を音や光へ変換(鑑賞と体験)
- ・骨伝導マイクを使って音を拡張(鑑賞と体験)・アーツ前橋や展覧会の紹介

アーティストから

生きづらさを感じているような子に
「表現は自由でいいんだよ」と大人が言って
あげられることはすごく大事です。
それを私は言葉ではなくパフォーマンスで
「これって変だけど、おもしろくない？」と
投げかけることを通して、
社会や常識でしばられていることが少しでも
ゆるんだらいいなと考えています。
答案用紙に書く答えは1つだけど、
生きてると本当に
答えが1つのことなんてほとんど
ないですからね。



●ホームイに挑戦。自分の声の中にある「倍音」をよく聞いて探します。



●骨伝導マイクを付け、頭の骨を叩く音で山川さんとセッション！

山川 冬樹 アーティスト

1973年ロンドン生まれ。身体の内部で起きている細微な活動や物理現象をテクノロジーによって拡張/表出したパフォーマンスや映像、サウンドインスタレーションを発表。ロシア連邦・トゥバ共和国の伝統歌唱「ホームイ」の名手としても知られる。



—— 図画工作科授業へのアーティスト参加・支援プログラム ——

3～6年生11学級の図画工作科授業に、アーティストが独自の表現・鑑賞の知見・技術によって教員の指導や子どもたちの支援者として入り、自由な関わりの中で子どもたちの創造性・多様性や授業題材の魅力を引き出すことを目指したプログラムです。複数年度にわたる長期間の実施を想定しており、学校・教員・児童・アーティストの相互の働きかけが授業外での活動など新たな展開や価値を生み出すことが期待されます。

※本プログラムは、平成28年度に開始した「表現の森」の継続事業の一部です。詳しくは特設サイト(<https://www.artsmaebashi.jp/FoE/>)をご覧ください。

●スケジュール

2017年 6/21	活動内容・方法について相談
10/2 ↓ 10/30	3～6年生の図工授業への参加開始 市図工美術展に出品する平面作品を作る 「絵を描く会」をチームティーチングで 支援(T2を担当)
11/24	今後の活動内容・方法について相談
11/28 ↓ 2018年 2/28 (以降も継続中)	3～6年生の図工授業(鑑賞・立体・工作等)への T2としての参加



●担当の先生を補助してT2で授業に参加。
子どもたちの学びを支援します。



●道具の使い方や表現の方法、アイデアの出し方について
アドバイスします。

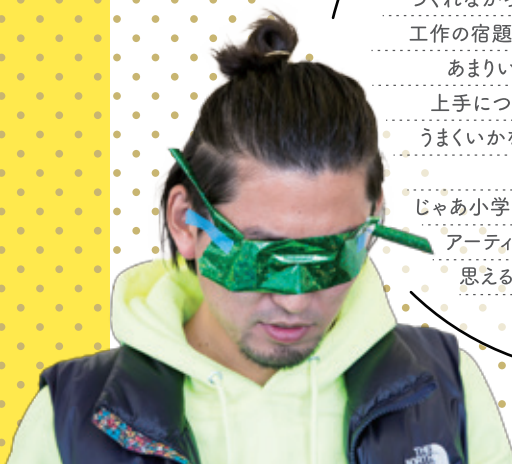
アーティストから

図工の授業を見ていると、
自分が小学生の頃をよく思い出す。
思い出すのは、つくりたかった形がうまく
つくれなかったことや、2学期が始まる日の朝に、
工作の宿題を母親と泣きながらやったことなど、
あまりいい記憶ではないものばかりだ。
上手につくることができた喜びだけでなく、
うまくいかなかったことから学んだことの方が
多いからかもしれない。
じゃあ小学生だった頃の自分が図工の時間に
アーティストと出会い、あってよかったと
思える時間はどんなものだろうかと、
想像している。

中島 佑太 アーティスト

1985年群馬県前橋市生まれ。幼少期を郊外型団地で過ごした元野球少年。野球つばいから、という理由でワークショップを始める。2016年にアーツ前橋、群馬大学の学生たちと旅をテーマにしたワークショップユニット「LDKツォーリスト」を立ち上げ、南橋団地でワークショップを行う。

<http://nakajimayuta.net/>



アーティスト・イン・スクールが実施されるまで

①派遣アーティスト決定

展覧会に参加するアーティストなどから、アーツ前橋が派遣アーティストを決定します。

②実施校決定

実施時期や内容を踏まえて、実施する学校を前橋市教育委員会と相談のうえ、決定します。

※実施校決定後に、学校の希望を踏まえて派遣アーティストを決定する場合があります。

③打ち合わせ、下見（必要に応じて複数回）

コーディネーター、アーティスト、アーツ前橋スタッフが学校を訪問し、児童・生徒の皆さんの普段の様子や先生のご希望などをお聞きし、プログラムの詳細を打ち合わせします。また、会場となる場所の下見を行います。児童・生徒の皆さんの肖像権の同意についても、予め確認させていただきます。

④アーティスト・イン・スクールの実施

スタッフやコーディネーター、教育を学ぶ大学生などがサポートで入ります。今後の事業に反映するため、事業終了後に児童・生徒の皆さんや先生方へアンケートの実施をお願いする場合があります。

⑤報告書、記録映像の確認

年度末までに報告書や記録映像を作成します。学校へ内容を確認させていただいたうえで、アーツ前橋の公式サイト等で公開します。

※原則として、前橋市内に所在している学校で実施いたします。

※学校側の費用負担はありませんが、学校にある機材や道具をお借りすることがあります。

アーツ 前橋
ARTS MAEBASHI

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町5-1-16
TEL: 027-230-1144 FAX: 027-232-2016
✉ artsmaebashi@city.maebashi.gunma.jp
🌐 <http://artsmaebashi.jp/>